

研究題名	武蔵野赤十字病院における挿管困難症例の「抜管」方法とその安全性
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 麻酔科 朴在元
研究の意義・目的	<p>全身麻酔を行うために気道確保は必須のものであるが、挿管困難は気道確保の失敗につながる恐れがあり、生命の危機に直結する。そのため武蔵野赤十字病院では、2018年より救急救命科と協力して挿管困難症例を登録しており、電子カルテを開くと同時に挿管困難既往の有無が判別出来る。「挿管」の安全性を担保するために始められた取り組みである。</p> <p>しかし、全身麻酔終了後に行われる「抜管」も、「挿管」と同様に困難気道に直結するということを忘れてはならない。</p> <p>麻酔科領域では「挿管困難患者管理のための実践ガイドライン」（アメリカ麻酔学会 1992年、2003・2012年改定）、「気道管理ガイドライン」（日本麻酔科学会 2014年）などが策定され約30年が経過した。一方、2012年「抜管のガイドライン」（Difficult Airway Society）がようやく公表されたが十分なデータに基づいたものとは言えず、実際の臨床では症例ごとに対応しているのが現状である。本研究の目的は、武蔵野赤十字病院における「挿管」困難患者の「抜管」方法とその安全性を検証し、「抜管」における問題点を明らかにすることである。</p>
研究の方法	<p>1) 対象者 2018年2月から2022年9月までの期間に当院において「挿管困難症例」に登録された症例を対象とする。</p> <p>2) 調査項目と評価解析方法 ・挿管困難の原因（ASA-PS、手術内容内訳、Cormack分類） ・挿管方法（挿管者、使用デバイス、所要時間、挿管の成否） ・抜管方法（施行時間帯、抜管者、使用デバイス、抜管の成否） 以上の項目を、記録用紙原本の患者属性（氏名、ID、生年月日）をマスキングした上でコピーして集計し、各項目の割合や傾向について分析する。</p> <p>3) 研究期間 2022年11月から2023年4月</p>

<p>1 情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関への提供されてる場合はその方法を含む)</p> <p>2 利用し、又は提供する情報の項目</p> <p>3 利用する者の範囲</p> <p>4 情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</p>	<p>1 研究対象者に生じる負担やリスクに関しては、患者個人の情報を含まない試料を集計するため個人が特定されることはなく、研究終了後はコピーした試料を裁断破棄するため負担リスクはない。</p> <p>2 調査項目と評価解析方法 ・挿管困難の原因 (ASA-PS、手術内容内訳、Cormack分類) ・挿管方法 (挿管者、使用デバイス、所要時間、挿管の成否) ・抜管方法 (施行時間帯、抜管者、使用デバイス、抜管の成否) 以上の項目を、記録用紙原本の患者属性 (氏名、ID、生年月日) をマスキングした上でコピーして集計し、各項目の割合や傾向について分析する。</p> <p>3 武蔵野赤十字病院 麻酔科 朴在元 犬飼慎 大塚美弥子 齋藤裕南浩太郎</p> <p>4 朴在元、武蔵野赤十字病院麻酔科</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 麻酔科 氏名 朴在元 TEL 0422-32-3111 (代表)</p>